③個人追究:切り上げて計算し1000円で買えることを説明する。

②学習課題:文房具の値段を切り上げて計算し，1000円で買えるか考えよう。

②見通し:どのように見積もりをすればよいかわからない。

→高めに見積もって1000円以下になれば買える。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・四捨五入，切り上げ，切り捨てで概数を求めることができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・各数を概数にしてから計算すればよいことを学習している。

教材研究ノート№4-A-13

④共同追究後半（思考を深める）

「四捨五入でも，切り上げるものと切り捨てるものがあれば、差し引きなしで正確に見積もれるのではないか？」

→「すべてが差し引き0になるとは限らないから使えない。」

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの切り上げ方でも買えることがわかる理由はどうして？」

→「高めに見積もったから，1000円を超えなければ買える。」

→「百の位で見積もり，だめなら十の位で見積もればよい。」

130円

475円

290円

≪学習問題≫

はるかさんは文房具を買いに行きました。1000円で買えるでしょうか。

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・目的に応じて，四捨五入，切り上げ，切り捨てを使い分けると便利だ。

・値段などの条件に合わせて，見積もる位を決めればよい。

⑥定着･活用問題

560円のクッキー，138円のチョコレート，

438円のカステラを買おうと思います。

1000円以上買うと福引きができます。

はるかさんは，500＋100＋400＝1000と計算し，

1000円では買えないから福引きができると考えました。

はるかさんの考えを説明しましょう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・普段から，「いくつ位になりそうかな」等と，結果の見積もりをしていると，無理なく位置付く単元である。

・そのまま計算すればよいと，こだわりをもつ子どもがいる場合もあるので，「どの位を切り上げたのか」をはっきりさせながら，「どうしてそれでよいのか」を子どもたちが説明し合うことを大切にしたい。